広報にいつ

発行所　新津市役所
発行人　新津市役所
総務課
電話　大代表(2)2111
印刷所　東洋館印刷所
毎月一回発行

市制施行
20周年
特集号

（写真提供は坂詰金治郎氏）

新春に映える老松

市民のみなさん新年おめでとうございます。昭和四十六年の新春を迎えるにあたり、市議会を代表して市民の皆さんのご繁栄をことほぎ、あわせて市政の進展をお祝いできますことは私のもっとも大きい喜びであります。

私は昨年三月はからずも議長に就任いたしまして、市政の進展は円滑かつ正常な議会運営にあると考え、誠心誠意努力してまいりましたが、おかげをもちまして大過なく新春を迎えることができました。これはひとえに皆さまのご支援とご鞭撻のたまものとから感謝の意を表する次第であります。

いまや文明の進化はあらゆる分野にわたって止まることなく、その驚異的な躍進は人類の福祉にとって厳然に堪えないところでありますが、半面依然として続く物価高の様相、直接間接による公害の尚増等は国民生活に不安を与えており、一方米の需要調整を源に次第に深刻の度を加える農業問題、人件費高騰の中に金融緊直化と取り組む中小企業関係の問題等大企業の地方進出などと相俟って、さらに明暗の度を濃くしてゆくところであり、高度成長の裏面を見逃がすわけにゆかない現状であります。かかる状勢のなかで、わが新津市の直面する幾多の重要問題をどう解決してゆくか、政府市政を担当する私どもに課せられた責務をよいよ痛感するものであります。衆議を練って市の予算が有効適切に使われ、最大の効果があがるよう鋭意努力する所存であります。

何とぞ皆さんにおかれましても、旧に倍するご支援とご鞭撻をお願い申し上げる次第でございます。終りに皆さんのご多幸を心からお祈りいたしまして年頭のあいさつといたします。

昭和四十六年元旦

新津市議会議長　栗原祐一

かがみびら

市民のみなさんの新年おめでとうございます。

私は、昨年三月皆さんの暖かいご支援によりまして市政を担当することになりましたが、私が常に心がけておりますことは、皆さんから市政に寄せられた信頼と期待にこたえるため、どうしたら皆さんの生活をより豊かに、すばらしいものにできるか、どうしたらすぐれた人づくりをすることができるかということでございます。

また、市政のすすめかたとして心がけていることは、市民の皆さんとともに考え、市民の皆さんが納得のゆく市民のための市政、ということで、市のような地方自治体は、市民のひとりひとりが市政に関心を寄せられ、愛郷心をお持ちくださるのでなければ、なかなか住みよい美しい町になり難いものであると思います。

昭和四十六年元旦

新津市長　志田保

皆さんの積極的かつ建設的な市政参加とご協力のもとに、新津市に住む人たち全体の幸せをしっかりと守っていきたいと考えております。

幸い、皆さんのご協力により市政は順調に進展をみています。しかしながら新津市には、目下重要案件が文字どおり山積いたしておりまして、皆さんのご協力なくしては一つとして解決することは不可能であります。

そこで、私はこうした具体策について市議会のご協賛と市民の皆さんから十分ご理解をいただき、明るい住みよい郷土建設のため、精いっぱいの努力を尽す所存でありますので、どうか今後とも市政のためいっそうのご支援、ご協力をお願い申し上げます。

年のはじめに当たり、皆さんのご多幸とご健康をいのりながお祈り申し上げ、簡単でございますが一言お礼と所感の一端を申し述べ、新年のごあいさつといたします。

新津市長　志田保

生きているお正月行事

日本の民間に古くから行なわれ、そして今も伝承されている楽しい年中行事は、たくさんありますが、この行事の中に感慨を抱く気持は、単なる過ぎ去って行くものに対する感傷ではなく、私たちが幼ないころから身につけ、親しみ深い気持で、誰れもが一生もちつづけたい記憶です。

すべてが近代化され、合理化されつつある現在、これらを抱く気持が急速に失なわれていくように思われます。

そこで年の始めにあたり、私たちが今もなお伝承されているお正月行事のいくつかを、ここにひろってご紹介してみます。

◇元旦、初詣

我々の遠い祖先たちは、正月の満月の夜を一年のはじまりとし、年始めの行事をしていましたが、後に大陸から輸入された暦制の影響により、元旦を一年のはじまりとする風習が地方へ普及しました。今日では全国一般に夜の十二時が年の境と考えられるようになり、元旦に神社へ拝みに行く人が多くなり、十二時以後でないと、初詣とはいわないように考える人々が多くなったようです。

◇門　松

年の暮れに山から対の生木を伐ってきて、それを立てて飾る習わしは、古くから広い地域にわたり行なわれてきましたが、門松の起こりは、この伐ってきた木を立てる場所を家々の外庭の正面に選定したなごりであり単なる門口の装飾ではなく、本来は年神の降臨する神木の一種なのです。

◇鏡　餅

餅は年中行事のいろいろの日のために、つくられますが、正月には最も多くつくられ、餅といえば正月を連想し、正月といえば餅を思うほど、餅と正月との関係は深く、多くは年の暮れの二十八日ころにつきます。正月を間近に控えて夜の闇の中に米を蒸す火があかあかと燃え、杵音の響きわたるにぎやかな興奮は、一生涯の思い出となるほど深い印象を子どもたちの脳にきざみつけるものです。鏡餅の名称は、昔の鏡が金属の薄い円盤状をなしていたところからきています。

◇注連縄

シメ縄は神の占有される清らかな区域を示すための張り縄で、神を祭るときに、その場所にシメ縄を張りめぐらすことにより俗界との区画がつくられることになります。古くはシメ縄を年縄と呼びましたが、今では主に九州、東北地方だけ用いられています。

◇初　夢

元旦から二日にかけて見る夢のことをいいます。夢の知らせとか、夢の告げという言葉は今でも用いられ、夢見が悪いと気にする人が少なくありませんが、昔は夢を盗聴の糸口のように考え、これによって未知のことを判断しようとする人が多かったのです。

「一富士、二鷹、三茄子」は夢の代表とされていますが、夢によって一年の各人の運勢の判断を試みたのが元来初夢の意味であったのです。